

テーマ：『 土作りや植物の栽培活動を通して身近な環境問題を考える 』

横須賀市立 野比小学校 046-849 7566

担当者： 永松 みどり

吉田 伸子



■実践内容：

栽培活動を中心に全校で取り組んだ。落ち葉や育てた野菜を集め、その中に石灰チッ素やわらや油かすを入れ堆肥を熟成させ、土と混ぜ栽培活動に活かした。四季の移り変わりを考え、春はじゃがいも、夏はトマト、秋はサツマイモ、冬はブロッコリーを育てた。稲作作りでは、地域の稲作農家から指導を受け、田植えから稲刈り、脱穀まで行いそのお米を使ってカレーやさんを総合的な学習の中で活かした。栽培活動では、飼育栽培委員会の児童が、中心になって1クラス1プランター運動を全校に呼びかけ、委員会の児童が球根や種まきをした。そして花の苗を育て卒業式場や地域の商店街・駅構内に飾ってもらい、地域の人々に楽しんでもらった。また、全校集会では野比小の動植物をカルタで表すとともに飼育栽培委員会の取り組みを紹介した。また、環境教育体験車 NEO による体験授業を行い地球温暖化やソーラーカーに試乗したり、ソーラークッキングをしたりした。さらに野比小学校の近くを流れる川の上流部で水とのふれあいをして水性生物を見つけ、自然のよさを体験し、川の働きについて学んだ。さらに全校児童が、省エネルギーについて考え、太陽光発電について学習した。

■実践成果：

全校を通じて理科・生活科の学習や総合的学習の中で、植物の栽培活動の計画を立て、年間を通して野菜や花の栽培活動に取り組んだ。水やりや草取り等継続的な世話を行い、自然とのふれあいを楽しみ、収穫を体験することができた。また特別支援学級で育てたジャガイモやダイコンを給食の自校献立の食材にして全校で味わうことができた。このことは、本校の学校教育目標の食教育にもつなげることができた。また1年生の算数では、生活科の合科として、育てたヒマワリの種を集めてみんなで数を数え、大きな数の学習につなげることができた。また児童会での飼育栽培委員会の活動を全校につなげた。1クラス1プランター運動「のび花プロジェクト」や節電・節水の提案をしたことで、全校が水道の水や電気の消し忘れなどに着目するようになった。その発展として太陽光発電を考えてみようということになり地球規模のエネルギー活用にまで目を向けるようになった。また野比川の学習は、里山や自然保護の学習にも広げることができた。

■実践ポイント：

学校全体で取り組むことにした。土作りや栽培活動については、年間指導計画に位置づけ、職員作業で教材園の整備を行った。耕運機で土を掘り起こし、堆肥を入れ、土作りをした。またつねに栽培環境を整えるための工夫を至るところに施してきた。校庭にある樹木に名札をつけたり、玄関や廊下に季節の花コーナーを設けたりして、身近な自然の環境に目を向け、親んでもらおうと考えて実践してきた。